

# 喘息

集中治療シリーズ



—咳が止まらない—

東洋鍼灸院



# 喘息とは

現在、日本には300万人以上の喘息患者がいると言われていて、そのうち4,000人/年が死亡しています。死亡率は、イギリスの1.4倍、スウェーデンの6倍です。

これは正しい治療が日本で普及してないからだと考えられています。

また、子供のころに喘息を発症していなくても、大人になってから発症する方も多くいます。成人の喘息患者の56%は大人になってから発症した人達です。



# 喘息の種類

## ・アトピー型喘息

小児喘息の多くと、成人喘息の半数がダニ・ハウスダスト・花粉などのアレルゲンと関係しています。

## ・非アトピー型喘息

小児喘息の1割と成人喘息の残りの半数は、アレルゲンが見つからない非アトピー型喘息で、この非アトピー型喘息は、風邪のウイルスやストレス、タバコの煙、香水の強い香りといった外界からの刺激が要因と考えられている

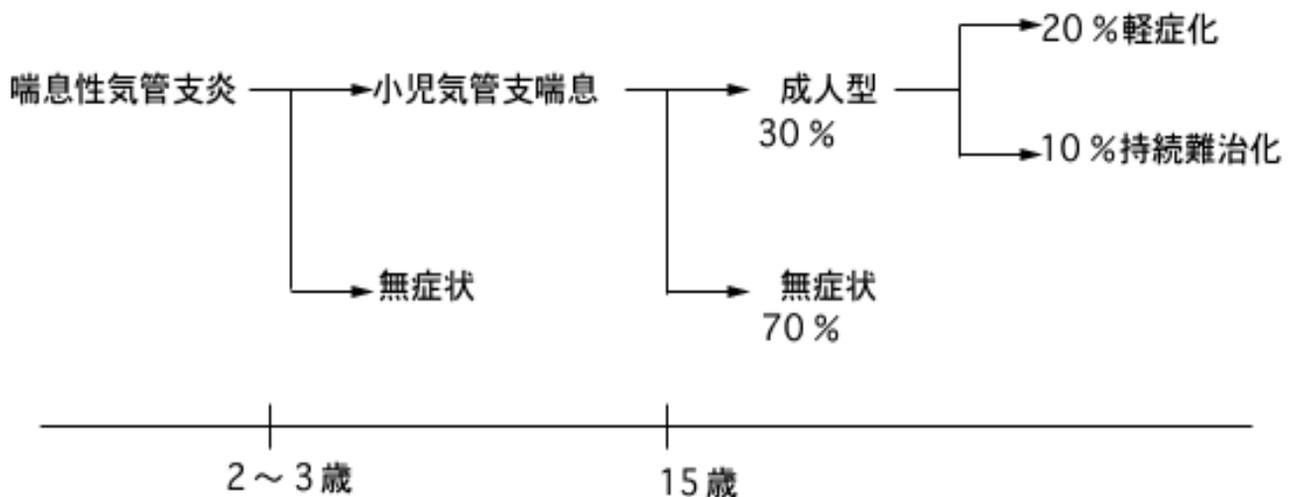
大人になってから喘息になるというのはこの『非アトピー型喘息』が多いのです。

# 喘息

幼児期ではカゼなどの感染に関係なくヒューヒュー、ゼーゼーという喘息特有の症状が出てくるようになります。つまりこの時期に喘息と診断されることが多いのです。小児の喘息は5～6歳までにその80～90%が発症します。

思春期になると:約70%の人は発作が起こらなくなってきます。だいたい30%の人は成人まで続くということですが、だいたい20%は軽症化しながら移行し、10%がそのまま持続して難治化するといわれています。

だいたい2年間、発作がなければ喘息が治ったといわれていました。しかし、治ったようにみえても、2～3年後に再発してくることがあります。その率は20～30%といわれています。成人になって再発する人が4%くらいいます。



# 備考

喘息発作の時は気管支の内腔が狭くなり、ヒューヒュー、ゼーゼーという音は、その狭くなった気管支の中を空気が入り出すときの音です。

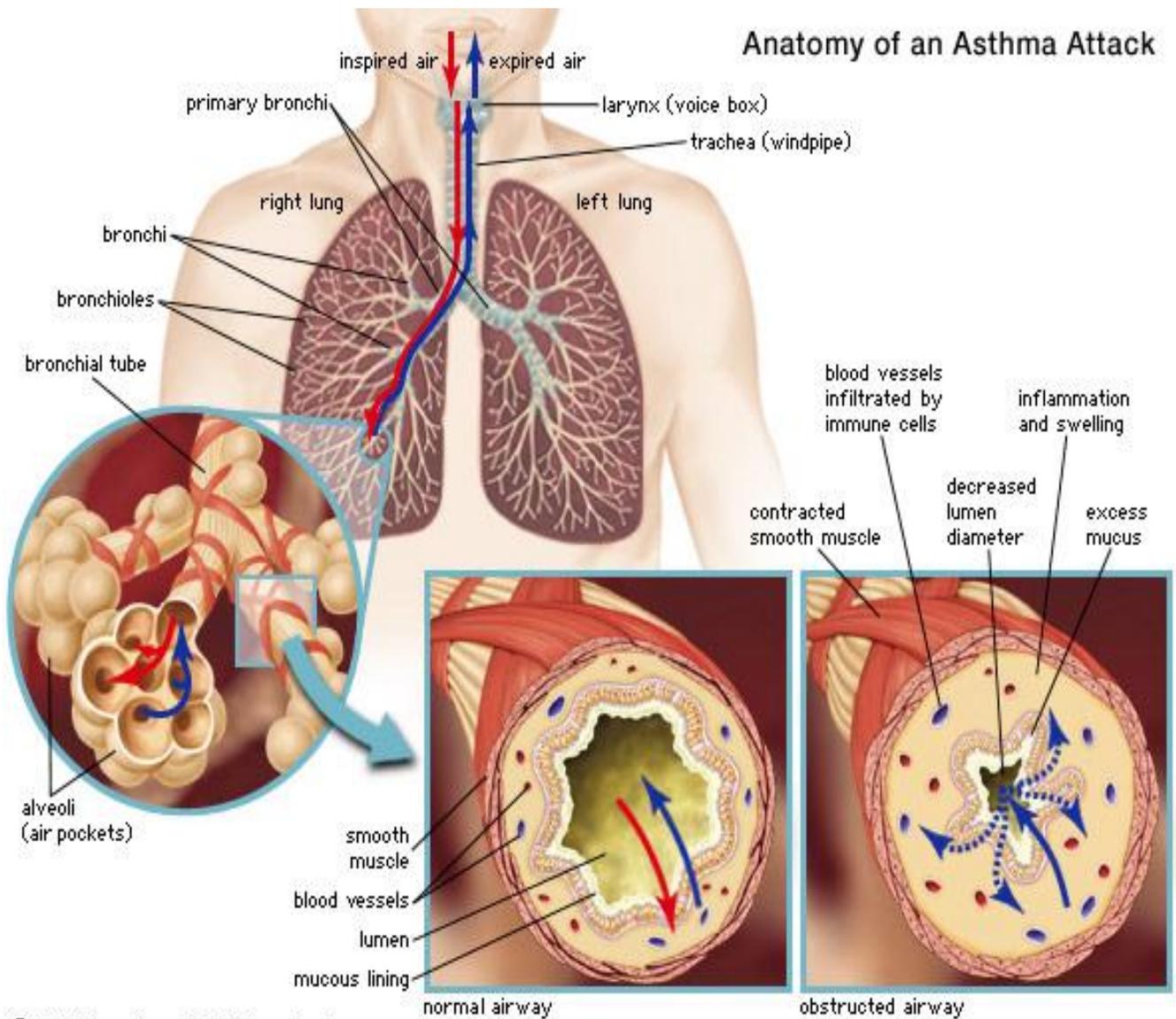
内腔が狭くなるのは、以前は気管支が収縮されるからだと思われていましたが、最近、そのことよりも、実際は気管支粘膜から痰がたくさん出たり、気管支粘膜に充血や浮腫・ただれが起こって気管支の内腔が狭められるからだとわかってきました。

以前は、喘息の治療は、発作の時に狭くなった気管支を拡げて呼吸が楽になるようにする治療が主流でしたが、最近になって、喘息の本当の姿は気道粘膜のアレルギー性の炎症であり、気管支の収縮はその結果であることがわかってきたため、炎症を抑えて発作を起こさせないようにする治療（予防療法）が大切であるという考え方が主流になってきました。

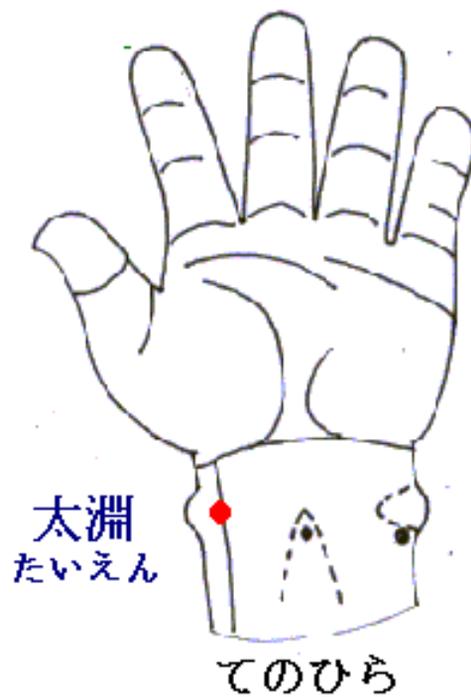
気管支粘膜を正常に保ち続けることが、喘息そのものを治すことにつながるのです。

このような考えから、短期間に何度も発作を繰り返す場合は、発作が起こってから対処するのではなくて、発作が起こらないようにすることが大切だという考えが主流になってきたのです。つまり、発作の予防が大切なのです。

# 正常気管支と喘息発作時



# 東洋医学的治療



# 当院地図



営業時間 金曜定休

電話受付: 朝10時~夜11時  
院内治療: 朝11時~夜10時



〒140-0004

品川区南品川2-11-4

東洋鍼灸院

0120-489-891

03-3474-5559

[www.489891.com](http://www.489891.com)